（２）産業廃棄物

１．R7（2025）年度の単純将来の推計値について

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | R1年度【基準】  (2019) | R7年度①  (2025) | R7年度②  (2025) |
| 排出量（万トン） | 1357 | 1375 | 1368 |
| 再生利用率(％) | 32.4% | 32.8% | 32.4% |
| 最終処分量（万トン） | 40 | 40 | 39 |

※2025年度の推計については、コロナの影響を踏まえた経済動向により、２パターン想定

２．推計方法について

(1)排出量

　今後とも「大きな技術革新及び法律上の産業廃棄物の分類に変更がなく、現時点における産業廃棄物の排

出状況等と業種ごとの活動量指標との関係は変わらない」ものと仮定して、2019年度の業種別・種類別の原

単位に将来の活動量指標を乗じて排出量を予測する。業種別の将来予測方法は次とおりである。

1)建設業

排出量＝原単位×活動量指標

・原単位＝2019年度実績排出量/着工床面積

・活動量指標＝2019年度の着工床面積×GDP成長率（試算）

2)製造業

排出量＝原単位×活動量指標

・原単位＝2019年度実績排出量/製造品出荷額等　（※業種中分類別・種類別に算定）

・活動量指標＝①2019年度の製造品出荷額×GDP成長率（試算）

　　　　または、

　　　　②2019年度の製造品出荷額×直近の大阪府工業指数から予測した2025年度の同指数

3)水道業

排出量＝計画値を利用

4)病院

排出量＝原単位×活動量指標

・原単位＝2019年度実績排出量/病床数

・活動量指標＝直近の病床数から予測した2025年度の病床数

5)その他

排出量＝原単位×活動量指標

・原単位＝2019年度実績排出量/従業員数　（※業種別・種類別に算定）

※2019年度までは実績値を示している。

※2020年度以降は、2019年度の製造品出荷額に①、②の２種類により予測した指数を乗じた値を示している。

　それぞれの特徴は以下。

①内閣府が公表している全国的な景気動向などに、雇用情勢などを踏まえて、ニッセイ基礎研究所が発表した

　「中期経済見通し(2019～2029年度)」のGDP成長率（試算）をベースに予測。

　（2019、2020年度については、コロナの影響を考慮するため、内閣府が公表したGDPを踏まえてニッセイ基

　礎研究所が修正した値を使用）

②大阪府が公表している大阪府工業指数をもとに予測。

　・2020年は、現在公表されている2020年１～７月までの工業指数（生産）の実績値から推計した値

　・2021年以降は、2013年から2019年までのトレンドをもとに2025年までを予測した値

・活動量指標＝直近の従業員数から予測した2025年度の従業員数

(2) 再生利用率・最終処分量

将来における処理・処分状況については、産業廃棄物排出量に対する再生利用、減量化、最終処分等の処理・処分量の割合が2019年度実績のまま今後も変わらないものと仮定して、将来推計排出量に業種別・種類別の処理・処分量の割合を乗じることで算出する。

1)再生利用率

再生利用率＝再生利用量÷排出量

・再生利用量＝排出量×再利用割合　　(※業種別・種類別に計算し、合計する)

・再生利用割合＝種別・種類別の2019年度の再生利用量計÷2019年度の排出量

・排出量＝(1)と同じ

2)最終処分量

最終処分量＝排出量×最終処分割合　　(※業種別・種類別に計算し、合計する)

・排出量＝(1)と同じ

・最終処分割合＝業種別・種類別の2019年度の最終処分量÷2019年度の排出量

（年度）



**府内製造業における活動量指標（製造品出荷額）の状況及び予測**

**①**

**②**